



ポ プ ラ

学校教育目標「志に生きる」やる気 おもいやり たくましさ
生徒数 545名 教職員数 40名

新しい年を迎えて

校長 結城 正弘

新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしく願いいたします。

17日間の冬休み、充実した日々を過ごせたでしょうか。いよいよ平成30年がスタートしました。そして、今年度もあと3か月となりました。この3学期は、これまでの学習をまとめあげなければなりません。それには、単なる知識の詰め込みだけではだめです。身に付けた知識や技能を基に、何をどうしたら課題や問題が解決されるのかを自分で考え、判断し行動できる力としなければなりません。特に、3年生は、義務教育の総決算であることの自覚をもって最善をつくしてください。

さて、「布施柿」（ふせがき）という言葉聞いたことがありますか。東北地方には、「布施柿」という風習があったそうです。柿が熟して食べ頃になっても、柿を全部とるのではなく、いくつか残しておきました。それは、冬になって餌が少なくなったとき、小鳥たちが集まってきて、柿の実をついばむために残しておくそうです。つまり、人は豊かな自然の恵みに感謝し、自分たちのことだけではなく、厳しい自然の中で生きている他の生き物たちに心を通わせて、柿の実を枝に残してやるそうです。柿の実を人間だけでなく小鳥たちにも与えてやるという、心のゆとりや優しさを教えてくれていたのです。このように小鳥たちのために残した柿を「布施柿」と言います。

この「布施」というのは、お世話になっていることに感謝して、お坊さんたちにお金や品物を与えることです。この場合も、小鳥たちに柿を残して、自然に感謝しながら分け与えてやるということから「布施柿」と呼ばれるようになりました。

人は、自然のめぐみを知らず知らずのうちにたくさん受けています。だから、自分だけではなく、他の生き物にもできることをしてあげることが習慣になったのです。「布施柿」も、共に生きるということを考えた思いやりです。

みなさんも、木にいくつかの柿を残しておく「布施柿」の話を思い出して、今、自分ができることは何かを考えて、人のため、自然のためにできることを見つけて実行してください。

今日から、三学期が始まりました。3年生は、まず、高校入試があります。全力を尽くして臨んでください。そして、中学校最大の行事、卒業式まで66日となりました。最後の中学校生活、一日一日を大切に、勉強に運動にしっかり取り組み、3年間のまとめができるようにしましょう。また、1、2年生の皆さんは、この3か月の間に、上級生になる準備をしっかり行いましょう。そして、3年生が築いてくれた、久喜中学校の伝統をしっかりと受け継いで次年度へとつないでいってください。